

フェリス女学院短期大学

音楽科同窓会

Fグループ会報

第五号



昭和五十一年七月十日発行

フェリス女学院短期大学

音楽科同窓会

〒231

横浜市中区山手町五二一
電話〇四五(641)〇二四五番

時には思い出しましょう

二十五周年にあたり

音楽科同窓
会長代理

大島君子

フェリス女学院
短期大学長

佐藤

馨

今年、短期大学設立二十五周年にあたり
ます。音楽科は、実はそれ以前に専門学校として発
足し、第一回生は、田中順さん、大島久子さんな
ど優秀生揃いの七名の方々でした。この方々が、
猛勉強の上、文部省の厳しい検定試験に見事にパ
スされて、短期大学となることができたのです。
従って、今春卒業された方々は二十七回となるわ
けです。

それからの四半世紀の道程は、決して平坦なも
のではありませんでしたが、三宅洋一郎先生以下
諸先生の並々な御努力により、一貫した教育
理念のもとに、短大としての基礎が確立されまし
た。そして今、更に大きな発展を旨として、佐藤
学長、倉長科長を中心として、新しい活躍が始ま
っています。三宅先生のもとで立派に成人した音
楽科が、一人前の社会人として、音楽教育の社会
に責任を持ち、大きく日本の教育の為、音楽芸術
の為に、その力を発動して行く時期を迎えたと、
私は思います。そして、こうした教育の成果は、
常に卒業生の実力と、人間性によって世に問われ
るものであることを、卒業生の私達は、時々思い
出さなくてはいけないと思うのです。

会長の大島久子さんが、御多忙のため、しばら
くの間、その代理をお引受けしていますので、僭
越ながら思うことを書きました。

本年は、短期大学音楽科設立二十五年を迎える
ので、いくつかの行事が行われるわけですが、こ
れはいたずらに古きを回顧して、昔は良かった、
などと言うためのものではありません。むしろ次
の時代に向って気持を引きしめる、という方向で
いきたいと思ひます。

現代は、政治経済や社会の激しい変動のなかに
あって、芸術そのものの価値が問われている時代
であると考へます。見せかけの芸術の繁栄に眩惑
されてはなりません。次の二十五年の後に、フェ
リスの音楽科が真に価値あるものとして残るため
に、教職員はもちろん、同窓生や学生のたゆまぬ
努力が必要となるでしょう。

このような認識のもとに、音楽科はふたつの努
力目標を考へています。ひとつは、日本の音楽社
会の弱点でもあったものですが、真の魅力あるア
カデミズムの確立です。もうひとつは、国際的な
視野に立って音楽を把握することができるような気
風と、そのような人材の育成です。

同窓の皆さんも、どうかわれわれと同じ理解を
もって良いアドヴァイスや助力を寄せてくださる
ようお願いいたします。

× × ×

研修会から

去る五月十四日、音楽科四階ホールに於て、ハラルドフォーゲル氏によるバッハ平均率に関する公開講座が開かれました。

フォーゲル氏はドイツの著名なオルガニスト、音楽学者であり、世界各地での演奏、講演にと、活躍されておられます。

会場は学生、卒業生、先生方等で身動きもできない程でした。ステージには、ピアノとフォーゲル氏自身の手で調律されたチェンバロがおかれてあり、ふたつの楽器をくらべながら興味深い講演が二時間にわたって行われました。

私達が日頃ひとくちに平均率と言っている調律法が実は二通りあり、そのひとつが十九世紀以前に用いられていたWell-tempered（平均率）、他のひとつが十九世紀以後盛んに用いられたEqual-tempered（均等平均率）で、今日のピアノはいわゆる均等平均率で調律されているわけです。

Well-temperedというのは、基になる音から純正に五度をあわせて行くと、最後に基音にもどるべき時にもどらずに生じるずれを巧みに分散させる方法で、それには幾通りもの解決方法があるという事です。このために、Well-temperedによるチェンバロには、完全に協和する純正な五度のひびきをもつ音程と、そうでない不協和な五度のひびきをもつ音程とが生じるわけです。その違いをステージのチェンバロで何度も聴きくらべてみますと、たしかに不協和な五度音程にはピンピンと

したうなり（ビートと呼ばれます）が聞かれ、強い緊張感を持つ事がわかります。同じ五度音程となりのピアノで弾いてみますと、どの位置の五度でも、ひびきの違いは感じられません。この大きな相違を、実際に平均率クラヴィーア曲集第一巻第一番プレリュードの演奏によって聴きくらべてみました。Well-temperedによる演奏においては、協和、不協和の音程がはっきりしているために、和声進行における、緊張、弛緩の組み合わせの妙が良く解り、非常に面白く聞かれましたが、Equal-tempered による演奏では、どちらかと言えば平板で変化にとほしいもののように感じられました。このように、バッハの時代には夫々の曲の性格の違いは、音のピッチによるものではなく、音程間の微妙な差によってもたらされるものである、という事です。この事は、現代ピアノの音に慣れていく私達の耳には、非常に新鮮な経験でした。




次に、平均率クラヴィーア曲集一、二巻を通して、いくつかのその時代の典型的なスタイルの曲の演奏と説明がありました。

（第一巻第一番プレリュード、
この曲は当時のアルペジオの記譜法によって書かれてあります。即ち、音符のグループを見きわめ、各グループ毎に、全部の音を保持するよう演奏します。これによって豊かな音量を得る事ができます。

第一巻第二十一番プレリュード、
この曲の後半、Adagio と指示してある版もあります。テンポのわくがはずされ、自由

で幻想的なパッセージがあります。これはまさに典型的なイタリアスタイルと言えます。

第二巻第一番プレリュード、
この曲は冒頭は自由なイタリア風ソロで始まりますが、除々にポリフォニックな要素を増して行きます。これはドイツ的と言えます。

第二巻第十六番プレリュード、
これはフランス風と言えます。というのは、この曲を通して常に奏される  は、もしもフランスで出版されたならば  のまま印刷されたと推察されるからです。つまり当時のフランスでは  はごく自然に軽い付点をつけて演奏されたのです。

一般に、当時のアーティキュレーションの根本は、今日のピアノにおけるレガートではなかったという事を知っておく必要があります。このことは指づかいとも、密接な関係があります。例えば、同一鍵盤は、同一の指で、又、ごくわずかな音と音とのすきまを得るために、連続した音型を同一の指で弾く場合もあります。つまり、その時代、及び用いられた楽器によって、全てのテクニックは異なるということです。この事に関しての深い洞察と理解は、この時代の音楽を知る上で最も重要なことと言えるでしょう。）

このようなお話の後、いくつかの質問があり大変、有意義な研修会は終わりました。会場には、満足のあとの軽いざわめきがいっまでも続いています。

× × ×

★Fグループからのお願ひ

近年、卒業生の演奏活動が盛んになり、大変喜ばしい事と存じます。同窓会としても少しでも何らかの形で応援し、お役に立てたらと思っております。下記の点に注意されて、どうぞご遠慮なく演奏会幹事までお申し出下さい。

- ・プログラム、ちらし等、印刷物に「後援フェリス女学院短期大学音楽科同窓会」を記載希望の場合には事前に必ず演奏会幹事まで届け出ること。
- ・会、終了後には記載した印刷物を添えて報告すること。
- ・同窓会からの協力方法については演奏会幹事と相談のこと。お花、チケット援助、当日手伝い等。

演奏会幹事 九回 中島恭子

十五回 木村晴子

一九七五、七六年同窓会後援演奏会一覧

一九七五年度

六月二十三日 田中 順 ソプラノリサイタル

青山タワーホール

チェンバロとピアノの伴奏にライナー・ホフマン氏を迎え、ハイドン、モーツァルト、バッハ、テレマンの曲目でリサイタルを開催

七月二十五日 二十四期生第一回演奏会

少年文化会館

九州在住の二十四期卒業生十一名が、ソプラノ独唱、ピアノ独奏、二台のピアノの為の連弾により演奏会を開催

十二月五日 江口元子リサイタル 中央会館

毎年のリサイタルもこの会は第八回となり、山田耕筈、チャイコフスキー、シューマン、マルタンという意欲的な曲目に、伴奏はエリック・ヴェルバ教授

一九七六年度

三月二十五日 木幡春恵ピアノリサイタル

東京文化小ホール

十九期卒業の木幡さんが一九七三年からのフランス留学を終えての帰国リサイタル、曲目はドビュッシー、メシアン、ラベル。

五月二十六日 歌とピアノの夕べ

ピアノ 穴甘知栄子 ソプラノ 佐藤ゆり

神奈川県民小ホール

二十五期卒業のおふたりが前半に穴甘さんのピアノでスクリャーピン、ベートーヴェンを、後半に佐藤さんのソプラノでモーツァルト、ブラームスを演奏。

五月二十九日 二十四期生第一回演奏会

神奈川県民小ホール

昨年九州で行なわれた二十四期生の演奏会に続いて横浜近辺在住の卒業生九名による演奏会

六月十七日 大丸雅子、桑原妙子ジョイント・コンサート 青山タワーホール

三期の大丸さん、十期の桑原さんにより、モーツァルト、中田喜直、チャイコフスキー、ヴォルフのプログラムでジョイントコンサートを開催、ピアノはヘルムート・ドイッチ氏。

以上 六月三十日現在まで

◎次回研修会のお知らせ

来る九月十八日(土)、午前十時よりオーストリー、グラーツ国立音楽大学助教授、李清氏を迎え、公開レッスンをを行います。李氏は、日本生まれ、昭和三十七年よりウィーン国立アカデミー留学、最優秀で卒業後ヨーロッパ各地でのリサイタル、放送にと、活躍されておられます。

今回は、Fグループ会員より、三名の方のレッスンをさせていただきます。多くの会員の方々の御参加をお待ちしております。

小池由美子 シューベルト ソナタイ短調

作品一四三

中川佐和子 ラヴェル ソナチネ

高木典子 ベートーヴェン ソナタ作品九〇

研修会会員 千円 会員外二千円

◎音楽事務所開設のお知らせ

フェリスを卒業してから、もう十年余り経ちました。

この度音楽を学び、育った横浜で音楽事務所を始める事に致しました。最近、フェリスの卒業生の演奏活動も活発になり又、神奈川県下にもあちこちに大小の音楽会場が増え大変うれしく思っております。発足したばかりで至らない点もあると存じますが、皆様のリサイタルのマネージメント、音楽会の企画制作等、精一杯させていただきますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

十五回卒 木村 晴子

音楽科からのお知らせ

▽定員の変更と二つの専攻科目の設置

音楽科は長い間、四年制大学への昇格を願っています。その一つのステップとして五十一年度から学生の入学定員を在来の二十五名から五十名に変更し、器楽専攻と声楽専攻の二つの専攻科目を置くことになりました。

音楽科はピアノ、声楽や音楽教育などにそれぞれ専攻が分れていたように思われていましたが、実は皆さんがお貰いになった卒業免状をごらんになると書かれているように、短期大学音楽専攻という一つの専攻であったわけです。

二つの専攻科目はそれぞれ次のようなコースに分れています。

器楽専攻—ピアノ・音楽教育・音楽学・作曲
・オルガン・ヴァイオリン・チェロ・フルート。

声楽専攻—声楽・音楽教育。

▽研究生

もう一つの新しいお知らせは、短期大学を卒業し専攻科を修了した後、更に一ケ年、なお専攻科目を勉強することができるようになりました。

専攻科修了試験で、優秀かつ将来性ありと認められたものは、専攻科目を聴講できる聴講生とすることができ、器楽・声楽・音楽教育・音楽学・作曲の科目の他、音楽科の専門科目も聴講できるのです。学内では研究生とよび、五十一年度は九名の研究生が生まれました。その中三名は三ヶ月の予定で新しく開設されたウィーンの音楽教育センターに行き、かつてハイドン、モーツァルト、そしてベートヴェンが生活した地で生活し、恵まれた環境と音楽に囲まれて勉強しています。

実技科のものは、来年一月二十七日(木)に約三十分の演奏時間を課せられて公開修了試験が行われ、音楽学、作曲は論文、作品を発表する機会が他日与えられる予定です。

▽音楽科でのことしの特徴ある行事をあげて見ましょう。

九月二十九日―十月一日 学生旅行、

中伊豆大京スポーツランド

恒例の学生祭をとりやめてそのエネルギーを合唱と体育の合宿のために投入することになりました。先生方に加っていたいただき学生たち自身の手によったプログラムによる楽しい旅行になりそうです。

十月二十七日 短大二十五周年記念演奏会

NHK交響楽団と共演 於県民ホール

十二月十九日、二十一日

ベートーヴェン・第九交響曲演奏会出演

日本フィルハーモニーと共演 於県民ホール

▽音楽科新任講師紹介

平 島 正 郎 先生 音楽学

小 泉 ひろし 先生 合唱

木 村 理佳子 先生 ピアノ

中 島 恭 子 先生 ソルフエージ

▽ウィーン教育センター使用規定

フェリス女学院短期大学音楽科ウィーン教育センターは、フェリス女学院の学生、教職員、および関係者(同窓生など)の研修を目的として、ウィーン市に設置している施設である。

一、所在地

Munichreiter Str. 52, 13 Wien, Austria

二、設 備

三室(四ベッド)、浴室、キッチン(七十㎡)

テラス(五〇㎡)、洗濯室(共用)、体育室(共用)、物置(三〇㎡)、車庫(小型車二台) 食器、炊事用具一式、毛布、シーツ、バスタオル、ピアノ一台、電話。

三、宿泊料 (一泊、食事なし)

イ、音楽科学生 三〇〇円

ロ、教 職 員 一、〇〇〇円

ハ、学校関係者 二、〇〇〇円

ニ、右記の同伴者 四、〇〇〇円

四、宿泊手続および宿泊許可証

宿泊希望者は、原則として三ヶ月前までに所定の申込書を短期大学音楽科事務室に提出すること。宿泊者は管理委員会(短期大学長、同音楽科長、同事務室主任)で協議の上、短期大学長が決定し、宿泊許可証を交付する。

宿泊許可証を所持しない者は宿泊することができない。宿泊料は前納とする。

五、注意事項

使用者が備品等を紛失または破損した場合には、その相当額を弁償すること。

五、注意事項

使用者が備品等を紛失または破損した場合には、その相当額を弁償すること。

N響との共演について

同窓生有志で、合唱に参加ご希望の方は、音楽科学生部迄お問い合わせ下さい。

(〇四五) 六四一―〇二四五

練習日

九月二十五日(土) 午前十時〜十二時半迄

十月 二日(土) 〃

九日(土) 〃

二十三日(土) 午後三時〜

二十六日(火) 午前十時〜三時半

二十七日(水) 午後三時〜五時

於 N響練習所
於 県民ホール

横浜市新人演奏会

NHK新人演奏会

読売新聞社新人演奏会

五十年 度 新人演奏会出演者

専攻科卒

専攻科卒

横井 説子
小林 慶子
声 楽

野木 恭子
伊藤 直子
ピ ア ノ

神奈川県新人演奏会

専攻科卒

専攻科卒

堀 山田 杉本 関口 野木 森田
治子 眞理子 本 一美 木 恭子 えみ子
ピ ア ノ

専攻科卒
杉本 順子
ピ ア ノ

桑畑理恵子
声 楽



フェリス女学院短期大学25周年 記念演奏会

1976年10月27日(水)6:00開演
神奈川県民ホール

出 演
指揮：山田一雄
管弦楽：NHK 交響楽団
ピアノ：山岡優子

合唱：フェリス女学院短期大学音楽科合唱団
児童合唱 山手音楽教室児童合唱隊
バリトン 芳野靖夫
合唱指導 小泉ひろし
オルガン 島田麗子

プログラム

I. 「エグmont」序曲 作品84 Overture to "Egmont" op.84	ベートーヴェン L. V. Beethoven
II. ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K.466 Piano Concerto No.20 in D minor	モーツァルト W. A. Mozart
III. 組曲「展覧会の絵」(ラヴェル編曲) Pictures from an Exhibition (Orch. Ravel)	ムソルグスキー M. Mussorgsky
IV. 女声合唱とオルガン・管弦楽のための 詩篇 第23篇	萩原英彦

入場券
指定席 ¥2,500 自由席 ¥2,000
お問い合わせ
フェリス女学院短期大学 045(641)0245

昭和50年度会計報告

総 収 入	1,176,192	総 支 出	438,893
終 身 会 費	665,000	研 修 会 費 用 (同窓会総会兼) リサイタル他	158,000
研 修 会 入 会 金	168,000	活 動 資 金	52,625
研 修 会 会 費 (同窓会総会兼)	89,000	印 刷 代	77,100
白 菊 会 会 費	100,000	通 信 費	80,618
名 簿 代	7,500	音 楽 科 事 務 所	30,000
銀 行 利 息	140,692	幹 事 会 費 用	17,500
そ の 他	6,000	慶 弔 費	20,000
		そ の 他	3,050

前期繰越金 3,701,885
現在高 4,439,184 (昭和51年4月30日現在)

西日本新人演奏会

五十年 度 奨 学 会 表 彰 者

専攻科音楽専攻
望月 昭子
音楽教育

専攻科卒

堤 泰恵

フルート

淵田 恭子
横井 説子
山口 直子
岡本 衣代
桑畑理恵子
小林 慶子
伊藤 直子
声 楽

専攻科卒
伊藤 直子
ピ ア ノ

I 昭和51年度行事予定

9月	16日	(木)	前期再試験者発表及び追再試験時間割発表	AM10:00
	19-25日	(日-土)	前期追再試験週間	
	25日	(土)	前期終了	
9月	27日	(月)	後期授業開始	
	28-30日	(火-木)	音楽科研修旅行(予定)	
	27日	(水)	音楽科 N響協演 於 県民(大)ホール	PM 6:00
11月	6・13・20・27	(土)	音楽科集中講義(予定)	
	17日	(水)	学内演奏会 於 県民(小)ホール	AM10:00~PM4:00
	22日	(月)	"	
	25日	(木)	"	
	30日	(火)	"	
12月	1日	(水)	音楽科後期実技試験課題曲発表	AM10:00
	4・11日	(土)	音楽科集中講義(予定)	
	17日	(金)	クリスマス礼拝	
	"	"	音楽科音楽学・音楽教育論文提出締切	PM 3:00
	19-1月8日	(日-土)	冬期休暇	
	24-27日	(金-月)	音楽科冬期受験講習会(予定)	
52年				
1月	17-31日	(月-月)	入学試験受付期間	
	24日	(月)	後期学科試験時間割発表	AM10:00
	30-2月5日	(日-土)	後期学科試験週間	
2月	6-12日	(日-土)	入学試験週間(家政科)	
	7-11日	(月-金)	卒業級実技試験(音楽科)	
	13-19日	(日-土)	入学試験週間(音楽科)	
	17日	(木)	入試合格者発表(家政科)	
	21日	(月)	卒業級再試験者及時間割発表	AM10:00~PM 2:00
	22日	(火)	入試合格者発表(音楽科)	
	20-26日	(日-土)	卒業級追再試験週間	
	23-25日	(水-金)	1年生後期実技試験(音楽科)	
3月	9日	(水)	卒業判定教授会	
	10日	(木)	卒業者氏名発表	AM10:00
	14日	(月)	卒業礼拝	AM10:00
	15日	(火)	卒業式	PM 1:00
	16日	(水)	卒業演奏会 於 県立音楽堂 (予定) PM 6:00	
	17日	(木)	1年生後期再試験受験者及時間 割発表 AM10:00	
	20-26日		1年生後期追再試験週間	
	26日		後期終了	

☆ 編集後記 ☆

暑い夏をむかえましたが、同窓生の皆様如何お過ごしでしょうか。Fグループ会報 No. 5をお届けします。今年は25周年をむかえ、一同はりきっております。時にはフェリスの石段をのぼって母校をおたずねください。

梶山 美保子
熊本 美也子